《開幕》森万里子：燦燦（さん さん）

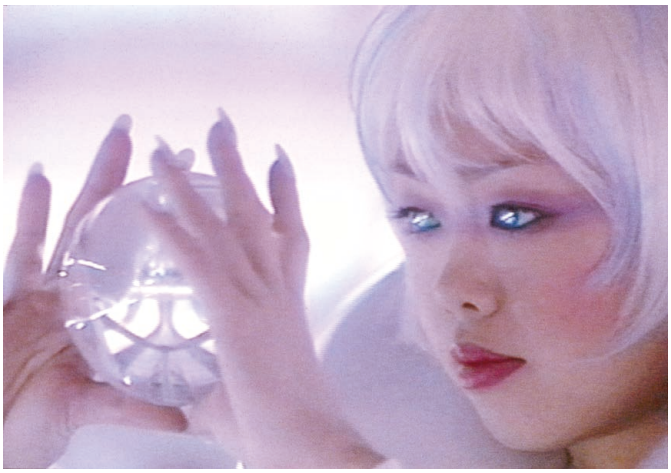
2026年10月31日（土）ー2027年3月28日（日）　森美術館（六本木ヒルズ森タワー53階）

アート、テクノロジー、そして超越的な体験
30年にわたるイノベーションの軌跡

森美術館ではニューヨークのソロモン·R·グッゲンハイム財団の協力のもと「森万里子：燦燦」を開催します。本展は、日本では東京都現代美術館での「森万里子 ピュアランド」（2002年）以来24年ぶりの大規模個展となり、30年以上にわたる活動のなかから40点の作品を紹介するものです。パフォーマンス、CG技術を駆使した写真や映像、ドローイング、立体作品、そして大規模なインタラクティブ·インスタレーションなど、森の代名詞とも言える多様なメディアを通して、コンセプチュアルで芸術性の高い実践の数々を総覧しつつ、その革新的な創作活動を、大衆文化、テクノロジーの未来主義、意識をめぐる哲学といった新たな枠組みに位置づけ、改めて包括的に評価します。

今日、世界の現代アート界で多様な文化や文明への関心が高まるなか、先住民族や非西洋における儀礼的·伝統的な営みと不可分な創作活動が再び注目を集め、一方ではテクノロジーの加速度的な進化によって創造行為そのものの意味が問い直されています。また各地で戦争や紛争が起こり、グローバル経済が政治化するなかで、ヒューマニティーとしての普遍性が切実に求められています。こうした時代に森万里子の実践を総覧することは、深い必然性があると考えます。

森万里子は1990年代半ば、自身のパフォーマンスに基づいた写真や映像作品である「サイボーグ」シリーズを発表し、コンピューター·グラフィックスを先駆的に使ったSF的なイメージで時代の寵児として注目を浴びました。彼女の関心はその後、日本のアニメ文化やジェンダー、ポストヒューマンといった現代社会への批評的な視点から、仏教の死生観や宇宙観に深く影響された、より壮大な哲学的関心へと拡がり、涅槃や浄土など仏教的世界を連想させるインタラクティブな大規模インスタレーションへ発展します。21世紀に入り、世界各地で分断が広がるなか、太古の時間から無限の宇宙まで、時空を超越したあらゆる生命の繋がりを提唱する概念「Oneness（一体性）」が彼女の実践における中核的な価値観となっていきます。そこでは世界中の学者や科学者との研究·協力に基づき、自然崇拝、縄文やケルトなどの古代文化、仏教の唯識論から、素粒子論、宇宙物理学まで、広範な主題の探究がなされ、《Wave UFO》（1999-2002年）に代表される、最新テクノロジーを駆使した作品として具現化、体験化されてきました。2010年には自然界と人間の繋がりを再認識する作品の恒久設置を目指してFaou（ファウ）財団を設立し、宮古島、リオデジャネイロなどでそのミッションが既に実現しています。



森 万里子　《巫女の祈り》　1996年　ビデオ　4分42秒



森 万里子　《Wave UFO》　1999-2002年　脳波インターフェース、ビジョンドーム、プロジェクター、コンピュータシステム、グラスファイバー、テクノジェル、アクリル、カーボンファイバー、アルミニウム、マグネシウム　528×1,134×493 cm
展示風景：「Wave UFO」プレゲンツ美術館（オーストリア）2003年
撮影：リチャード·リーロイド

プレスリリース　お問い合わせ　「森万里子：燦燦」広報事務局（サニーサイドアップ内）
mam_morimariko_pr@ssu.co.jp　担当：矢野（080-7934-3745）、城田（080-4652-4613）、岩崎

展覧会タイトルの「燦燦（さんさん）」は、森万里子の実践の中心にある「光」を象徴しています。光は、仏教では慈悲や智慧を示す光明、それを可視化した光背、神道では太陽神に代表される神々であり、森の具体的な作品のなかでは、超新星爆発などで生成されるニュートリノを可視的な光に転換した《トムナフーリ》（2006年）、冬至の太陽を捉える《プライマル・リズム：サンピラー（太古のリズム：太陽の柱）》（2011年）、《リング：自然とひとつに》（2016年）などに通底しています。光、知覚、意識を通る没入的な体験として構成された「森万里子：燦燦」は、テクノロジーの加速と惑星規模の不安定さに象徴される現代において、自身を見つめなおす場となるでしょう。

本展は、アレクサンドラ・モンロー（ソロモン・R・グッゲンハイム美術館・財団シニア・キュレーター・アット・ラージ［グローバル・アーツ部門］）と、片岡真実（森美術館館長）による共同キュレーションです。

森 万里子　略歴

1967年 東京生まれ
1992年 チェルシー・カレッジ・オブ・アート（ロンドン）卒業
1993年 ホイットニー美術館インディペンデント・スタディ・プログラム（ニューヨーク）修了
1995年 個展「森 万里子」アメリカン・ファインアーツ・カンパニー（ニューヨーク）
1997年 第47回ベネチア・ビエンナーレ国際美術展に参加。北欧館にも出品し、特別賞を受賞。
第5回イスタンブール・ビエンナーレ
第4回リヨン・ビエンナーレ（フランス）
1998年 個展「森 万里子」サーペンタイン・ギャラリー（ロンドン）、巡回：シカゴ現代美術館
個展「コンテンポラリー・プロジェクツ2：森 万里子」ロサンゼルス・カウンティ美術館
1999年 個展「はかない夢の中で」ブルックリン美術館（ニューヨーク）
個展「ドリーム・テンプル」プラダ財団（ミラノ）、巡回：ローゼアム現代美術館（スウェーデン、マルモ）
2000年 個展「リンク」ポンピドゥー・センター（パリ）
第12回シドニー・ビエンナーレ
第3回上海ビエンナーレ
2001年 第8回日本現代藝術奨励賞受賞、公益財団法人 日本文化藝術財団
2002年 個展「ピュアランド」東京都現代美術館
2003年 個展「Wave UFO」ブレゲンツ美術館（オーストリア）
2005年 第51回ベネチア・ビエンナーレ国際美術展
2006年 第1回シンガポール・ビエンナーレ
2007年 個展「ワンネス」フローニンゲン美術館（オランダ）、巡回：アロス・オーフス美術館（デンマーク）、ピンチュック・アート・センター（キーウ、2008年）
2010年 非営利団体Faou財団設立（ニューヨーク）
第1回瀬戸内国際芸術祭
2011年 巡回「ワンネス」バンコ・ド・ブラジル（ブラジリア、リオデジャネイロ、サンパウロ）　※リオデジャネイロ開催の「ワンネス」がその年の世界で最も来場者数の多い現代美術展となる。（The Art Newspaper 2012年4月号より）
プライマル・リズム・プロジェクト《サンピラー（太陽の柱）》を沖縄県宮古島市の七光湾に恒久設置［Faou財団］
2012年 個展「再誕」ロイヤルアカデミー（ロンドン）、巡回：ジャパン・ソサエティー（ニューヨーク、2013年）、西オーストラリア美術館（パース、2015年）
2014年 ロンドン芸術大学より名誉フェロー授与
2016年 リオデジャネイロ・オリンピック 文化プログラム《リング：自然とひとつに》をリオデジャネイロに恒久設置［Faou財団］
2022年 宮古島に自身の設計によるスタジオ「ユプティラ」建設
2024年 個展「ピース・クリスタル」パラッツォ・コルネール（ベネチア）［Faou財団］
現在、ニューヨーク、東京、宮古島在住

作品は、ソロモン・R・グッゲンハイム美術館（ニューヨーク）、ニューヨーク近代美術館（MoMA）、ポンピドゥー・センター（パリ）、フォンダシオン・ルイ・ヴィトン（パリ）、プラダ財団（ミラノ）、ロサンゼルス・カウンティ美術館、ベネッセアートサイト直島（香川、豊島）、グッゲンハイム・アブダビ（アラブ首長国連邦）、テート・モダン（ロンドン）、サンフランシスコ近代美術館、ピンチュック・アート・センター（キーウ）、ロサンゼルス現代美術館（MOCA）などに収蔵されています。

プレスリリース　お問い合わせ　「森万里子：燦燦」広報事務局（サニーサイドアップ内）
mam_morimariko_pr@ssu.co.jp　担当：矢野（080-7934-3745）、城田（080-4652-4613）、岩崎

メッセージ

二十代前半、父の死を機に、命のはかなさに向き合うなかで、人の存在は本当に終わってしまうものなのだろうかという問いが、私の中に芽生えました。まず仏教に答えを求め、宇宙物理の書をひもとき、世界各地の古代都市や祈りの場（ギザ、ラリベラ、アンコールワット、テオティワカン、マチュピチュなど）を巡り、やがて国内外の新石器時代の遺跡（オークニー、ニューグレンジ、井戸尻、大湯）へと思索を広げていきました。そうした探求の中で、科学者やエンジニアと協働しながら技術の開発を重ね、宇宙との結びつきを体験できるような新しい表現を試みてきました。

創作活動を通して、魂という存在があるのなら、それは光であり、より大きな存在の一部なのではないかと考えるようになりました。生と死は物質的な次元では分かれているように見えても、より深い層においては、もともと分断されていないのかもしれません。その感覚は、名づけることのできない内なる光として、作品の中に静かに息づいています。



撮影：下村一喜

開催概要



展覧会名：森万里子：燦燦（さんさん）

主催：森美術館

特別協力：ソロモン·R·グッゲンハイム財団

助成：一般財団法人田中仁財団、台新銀行文化芸術基金会

協賛：Anthropic、株式会社大林組、株式会社ヒューマントラスト、鹿島建設株式会社、株式会社関電工、株式会社きんでん、清水建設株式会社、株式会社三菱UFJフィナンシャル·グループ、トヨタ自動車株式会社、株式会社アルフレックスジャパン、株式会社文響社、寺田倉庫株式会社、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、フジテック株式会社、三機工業株式会社、ほか匿名

個人協賛：麻生 巖、伊達美和子、James Yi-Rong, Hsu、Jonathan and Sachiko Kindred、Color and Rurong Lee、重富隆介、ほか匿名　※姓のアルファベット順

協力：ルイナール

特別制作協力：スカイザバスハウス

制作協力：Angelino Artworks、スーパー·ファクトリー株式会社、アンテプリマ

企画：アレクサンドラ·モンロー（ソロモン·R·グッゲンハイム美術館·財団 シニア·キュレーター·アット·ラージ［グローバル·アーツ部門］）
片岡真実（森美術館館長）

会期：2026年10月31日（土）– 2027年3月28日（日）

会場：森美術館（東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階）

開館時間：10:00–22:00（火曜日のみ17:00まで）

＊ 入館は閉館時間の30分前まで
＊ 会期中無休
＊「六本木アートナイト2026」に伴い、10月31日（土）は翌朝6:00まで
＊ ただし、11月3日（火·祝）は18:00まで、11月27日（金）は17:00まで、2月23日（火·祝）は22:00まで

プレスリリース　お問い合わせ　「森万里子：燦燦」広報事務局（サニーサイドアップ内）
mam_morimariko_pr@ssu.co.jp　担当：矢野（080-7934-3745）、城田（080-4652-4613）、岩崎

入館料：

	［平日］		［土・日・休日］	
	当日窓口	オンライン	当日窓口	オンライン
一般	2,800円	2,600円	3,000円	2,800円
学生（高校・大学生）	1,700円	1,600円	1,800円	1,700円
中学生以下	無料			
シニア（65歳以上）	2,400円	2,200円	2,600円	2,400円

＊ 12月30日（水）、12月31日（木）は、［土・日・休日］料金となります。
＊ 事前予約制（日時指定券）を導入しています。各種オンラインチケット販売サイトから「日時指定券」をご購入ください。
＊ 当日、日時指定枠に空きがある場合は、事前予約なしでご入館いただけます。
＊ 表示料金は消費税込。
＊「六本木アートナイト2026」開催に伴い、10月31日（土）は東京シティビューとのお得なセット券を販売します。詳細はウェブサイトをご確認ください。
＊《Wave UFO》の鑑賞体験（ポッド内への入場）枠には限りがあります。詳細はウェブサイトをご確認ください。
＊ 本展のチケットで、同時開催プログラムもご鑑賞いただけます。
＊ やむを得ない事情により、展示内容・作品が変更となる場合があります。

同時開催：「MAMプロジェクト035：ブリー・ルエイ」
「MAMスクリーン024：ジャッカワーン・ニンタムロン」
「森アートアワード2026 グランプリ受賞記念展：片山真理」

一般のお問い合わせ：Tel：050-5541-8600（ハローダイヤル）　森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

最新のプレス画像は、こちらのURLより申請、ダウンロードいただけます。
https://rjpb.f.msgs.jp/n/form/rjpb/tuSxVram7nakEnn-fM8QR

プレスリリース　お問い合わせ　「森万里子：燦燦」広報事務局（サニーサイドアップ内）
mam_morimariko_pr@ssu.co.jp　担当：矢野（080-7934-3745）、城田（080-4652-4613）、岩崎

本展の構成

展覧会はゆるやかな年代順およびテーマ別の４セクションで構成されます。

1．スター誕生

1990年代半ば以降に大きな注目を浴びた《スター誕生》(1995年)や「サイボーグ」シリーズ(1994-1995年)などでは、アニメ、ビデオゲーム、コスプレ、ファッションが先駆的に採用され、作家自身が日常の都市環境の中に「ポスト・ヒューマン」の女性として登場しています。これらは、現在と未来、人間と非人間、サイボーグといった存在の領域を揺さぶるものでした。その後、森の関心は仏教の宇宙観へ拡がり、「エソテリック・コスモス」シリーズ(1996-1998年)などの大規模な平面作品が国外を中心に発表されました。ここでは高度なデジタル・イメージング技術が用いられ、秘境の地を背景に、仏教の図像に基づいた神格化された姿で自身が演出されています。一種の聖域として構想されたビデオ・インスタレーション作品《リンク》(1995–2006年)は、透明なアクリル製のボディ・カプセルの中に横たわる、静止した森自身の姿を映し出します。その背景には、人類の「過去・現在・未来」を象徴する、世界13か所の象徴的な風景が投影されています。森は、直線的な時間の概念を覆すような感覚を鑑賞者に提示し、生と死が絶え間なく循環する、仏教の「輪廻転生」の概念を具現化しています。さらに森のアプローチは、アートを「拡張された意識への入り口」と捉える新しい転換点を迎えます。これらの作品の華やかな外見の裏には、進化し続ける精神性への信念が暗喩されています。



森 万里子
《スター誕生》
1995年
3Dデュラトランス・プリント、アクリル、ライトボックス、オーディオCD
183×122 cm
3分20秒



森 万里子　《プレイ・ウィズ・ミー》　1994年
フジ・スーパーグロスプリント、木、アルミニウム、ピューター製フレーム
305×366×8 cm



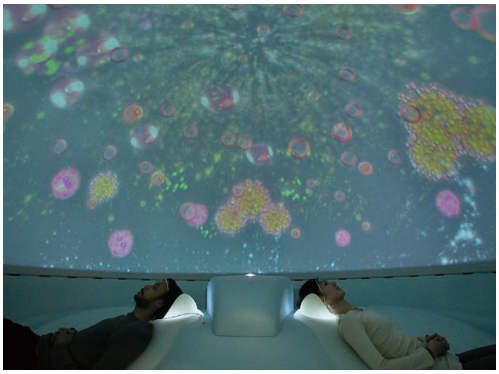
森 万里子　《ピュアランド(浄土)》(「エソテリック・コスモス(宇宙の秘儀)」シリーズより)
1996-1998年
写真、ガラス（インターレイヤー）、ステンレススチール　305×610×2 cm

プレスリリース　お問い合わせ　「森万里子：燦燦」広報事務局(サニーサイドアップ内)
mam_morimariko_pr@ssu.co.jp　担当：矢野(080-7934-3745)、城田(080-4652-4613)、岩崎

2. つながる世界

この後、森のテクノロジーへの関心はさらに発展し、中期のプロジェクトでは、国際的な科学者や研究所との協力により開発された高度な計算技術を活用し、没入型環境が作品化されていきます。立体作品として最大規模の《Wave UFO》(1999–2002年)は、脳波バイオフィードバックを用いた革新的な作品の一つです。鑑賞者は勾玉型の有機的形体のポッドに入り、自身と他者の脳波がひとつになる映像体験を試みます。(注1) これは21世紀に入り、世界各地で分断が広がるなか、森が2000年代初めから提唱する全人類の繋がり、「Oneness(一体性)」という概念を具現化したものでもあります。《Wave UFO》内のCG映像《コネクティッド・ワールド》では、深層意識との繋がりが視覚化されています。

(注1)「森万里子：燦燦」では、《Wave UFO》内部の鑑賞体験枠には限りがあります。



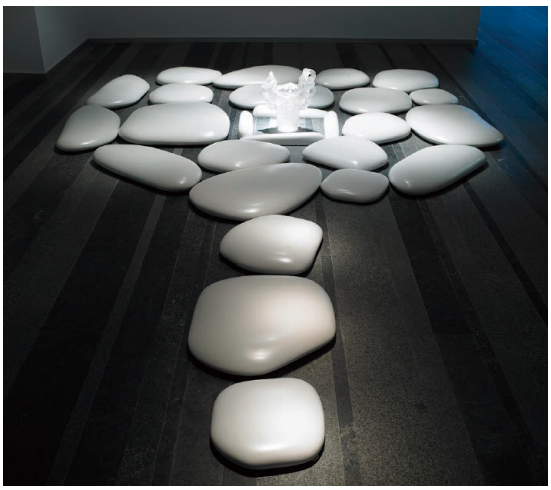
森 万里子　《Wave UFO》(内部)　1999-2002年
脳波インターフェース、ビジョンドーム、プロジェクター、コンピュータシステム、グラスファイバー、テクノジェル、アクリル、カーボンファイバー、アルミニウム、マグネシウム
528×1,134×493 cm
撮影：トム・パウエル

3. 太古の記憶

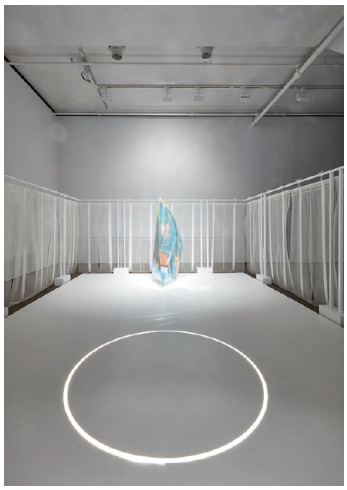
2004年以降、森は新石器時代のケルト文化や縄文文化の世界観にインスピレーションを得たプロジェクトを展開するようになります。ケルト文化において先祖の霊魂が転生する場を意味する《トムナフーリ》(2006年)は、東京大学宇宙線研究所のニュートリノ観測施設「スーパーカミオカンデ」からのリアルタイム・データによって発光する、トーテム状の立体作品です。太陽や地球の大気、遠方の超新星から発生するニュートリノに反応し、目に見えない宇宙の出来事を光の明滅へと変換することで、人智を超えた自然現象と鑑賞者を結びつけます。また、沖縄県の久高島、秋田県にある縄文時代のストーンサークル、大湯環状列石の写真作品や、縄文中期から後期の敷石住居などのリサーチから生まれた《フラットストーン》(2006年)も展示されます。昨年ニューヨークで発表されたインスタレーション《お社(やしろ)》も展示され、内部に置かれた立体は日本神話に登場するオノゴロ島の上立神岩や、熊本県の押戸石などをモチーフにしています。



森 万里子　《トムナフーリ》　2006年
ガラス、ステンレス、LED、リアルタイム制御システム
327×115×40 cm
撮影：リチャード・リーロイド
画像提供：スカイザバスハウス(東京)



森 万里子　《フラットストーン》　2006年
陶、アクリル
陶：488 x 315 x 9 cm
鉢：38 x 28 x 43 cm
Courtesy：スカイザバスハウス(東京)
展示風景：「ワンネス」ピンチュク・アートセンター(キーウ)2008年
撮影：リチャード・リーロイド



森 万里子　《お社》(部分)　2025年
絹、アルミニウム、木、ダイクロイック・コーティングされたアクリル彫刻(《カミタテ・ストーンI》と《オシト・ストーンIII》)、送風装置
190×929×379 cm
展示風景：「ラディアンス」ショーン・ケリー(ニューヨーク)2025年
撮影：ジェイソン・ワイシュ
画像提供：ショーン・ケリー(ニューヨーク)

プレスリリース　お問い合わせ　「森万里子：燦燦」広報事務局(サニーサイドアップ内)
mam_morimariko_pr@ssu.co.jp　担当：矢野(080-7934-3745)、城田(080-4652-4613)、岩崎

4. 自然とひとつに

展示の締めくくりとして、森が2010年に設立したFaou財団の活動を紹介します。「Faou」は「創造する力」を意味する造語で、同財団の活動は世界6大陸において、それぞれの地域コミュニティの協力を得ながら、宇宙や天空の動きとも連動したパブリックアート作品を設置しています。そして、その目的は自然環境という地球の宝の中で、自然と人間の関係への意識を高めようとするものです。2011年には宮古島に《プライマル・リズム：サンピラー（太古のリズム：太陽の柱）》が、2016年にはリオデジャネイロに《リング：自然とひとつに》が恒久設置されました。また、エチオピアでの設置が計画されている《ピースクリスタル》が、2024年にベネチアで発表されています。本展では、森が宮古島に建てたアトリエ「ユプティラ」（宮古言葉で豊かさを表す「ユプ」とこの島に伝わる狩俣創世神「ティラヌプス」から着想を得た名前）から見える海の風景、《プライマル・リズム：サンピラー》、《リング：自然とひとつに》など、美術館空間に収まらない活動をまとめた新作映像インスタレーション《すべては輝き》（2026年）を大型LEDスクリーンで展示します。



森 万里子
《プライマル・リズム：サンピラー（太古のリズム：太陽の柱）》
2011年
積層アクリル、ステンレススチール、コンクリート
420×φ76 cm
Courtesy：Faou財団（ニューヨーク）
展示風景：宮古島七光湾（沖縄）
撮影：リチャード・リーロイド



森 万里子
《リング：自然とひとつに》
2016年
積層アクリル、ステンレススチール、コンクリート
618×φ300 cm
Courtesy：Faou財団（ニューヨーク）
展示風景：クナンベベ州立公園（ブラジル、リオデジャネイロ州）
撮影：ステファニー・レアル



森 万里子
《ピースクリスタル》
2016-2024年
クリスタル・ガラス、ダイクロイック・コーティング、ステンレススチール、太陽光採光システム「ひまわり」
167.5×φ101 cm
所蔵：Faou財団（ニューヨーク）
展示風景：パラッツォ・コルネル・デッラ・カ・グランダ（イタリア、ベネチア）2024年
撮影：マルタ・プソ

森万里子のクロノロジーとスタジオ

展覧会場の、「クロノロジー」と「スタジオ」の各スペースでは、資料が展示されます。「クロノロジー」では、森万里子の展覧会歴が、初期のモデル時代の写真、展覧会の展示風景、パフォーマンス映像から数多くの出版物や掲載誌、展覧会評まで、豊富な資料を通してご覧いただけます。また「スタジオ」では、森が日々の実践として続けるドローイング、アイディアスケッチ、リサーチノート、森個人のコレクションである古代のオブジェクトなどが紹介されます。

展示替えについて
本展の一部の作品については展示替えがあります。詳細は森美術館ウェブサイトでご確認ください。
https://www.mori.art.museum/jp/exhibitions/marikomori/05/#artwork_rotation

プレスリリース　お問い合わせ　「森万里子：燦燦」広報事務局（サニーサイドアップ内）
mam_morimariko_pr@ssu.co.jp　担当：矢野（080-7934-3745）、城田（080-4652-4613）、岩崎

展覧会関連プログラム

▌トークセッション「All That Shines（燦燦）」 ※日英同時通訳

森万里子の 30 年以上にわたる活動を俯瞰する展覧会「森万里子：燦燦」。本トークセッションでは、本展を企画したアレクサンドラ・モンローと片岡真実が登壇し、グローバル、テクノロジー、スピリチュアリティ、光、シンクレティズムといった視点から森のこれまでの実践を紐解きます。後半は森万里子を迎え、三者による鼎談を実施。1990 年代の鮮烈なデビューから今日に至るまで、森万里子が何を問い続け、一貫して探求し続けてきたのか。境界を越え、普遍的な真理を追い求めるその世界観に迫ります。

日時：2026年11月3日（火・祝）14:00〜16:00（受付開始：13:30）
出演：森万里子（アーティスト）、アレクサンドラ・モンロー（ソロモン・R・グッゲンハイム美術館・財団 シニア・キュレーター・アット・ラージ［グローバル・アーツ部門］）、片岡真実（森美術館館長）
会場：Tokyo Node Hall（虎ノ門ヒルズステーションタワー46 階）
定員：300名（要予約、先着順）
料金：1,000円（※本チケットで展覧会はご覧いただけません。展覧会チケットは別途ご購入ください。）

＊このほかにも、アクセスプログラム、スクールプログラム、パフォーマンスなどさまざまな企画を予定しています。プログラムの詳細やお申し込みなどの最新情報は、森美術館ウェブサイトにてご確認ください。　www.mori.art.museum

プログラムに関するお問い合わせ：森美術館 ラーニング担当
E-mail: mam-learning@mori.co.jp

関連情報

▌展覧会カタログ

本展キュレーターの片岡真実、アレクサンドラ・モンローによる長編論考のほか、研究者・キュレーター6 名によるエッセイを収録。あわせて、本展出品作品図版および解説、参考作品図版、ドローイングや模型等の情報を多数収め、巻末には作家の歩みを紹介する森万里子のクロノロジーや、文献リストを掲載します。淡い光の層を重ねたようなグラデーションケースから、表紙がほんのり透けて重なる、森万里子の世界観を手のひらで感じられる美しい装丁にもご注目ください。森万里子の作家活動を総括する展覧会カタログです。

サイズ：A4変型判　**ページ数**：300ページ ※予定　**言語**：日本語（一部日英バイリンガル）
価格：5,940円（税込）　**発売予定日**：2026年12月下旬予定
編著：森美術館　**発行**：カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 美術出版社書籍編集部
販売場所：森美術館 ショップ 53（六本木ヒルズ森タワー53階）、森美術館 ショップ（六本木ヒルズウェストウォーク3階）、森美術館オンラインショップ

▌AI音声ガイド

本展では、AIを搭載した次世代の美術館体験プラットフォーム「artlas」の音声ガイドをご用意しています。artlasのAIガイドは、利用する方の興味や言語（日本語、英語、中国語を含む、20 以上の言語に対応）、ご希望の鑑賞時間に応じて、作品解説だけでなく、おすすめの鑑賞ルートもご案内し、よりパーソナライズされた鑑賞体験をご提供します。利用方法の詳細は、森美術館のウェブサイト（www.mori.art.museum）でご確認ください。

料金：無料　**企画・制作**：artlas　**監修**：森美術館
artlasウェブサイト：https://www.artlas.art/

プレスリリース　お問い合わせ　「森万里子：燦燦」広報事務局（サニーサイドアップ内）
mam_morimariko_pr@ssu.co.jp　担当：矢野（080-7934-3745）、城田（080-4652-4613）、岩崎

Anthropicとのパートナーシップ

「森万里子：燦燦」において、森美術館はAnthropicより展覧会協賛とともに、AIモデル「Claude」およびAnthropicのApplied AIチームによる、《すべては輝き》（2026年）の作品制作における技術協力を受けています。

Anthropicについて
Anthropicは、AIの進路を人類の進歩に資する方向へと導くことを使命とする、フロンティアAI企業です。世界中の数百万人の個人と企業に信頼されているインテリジェンスプラットフォーム「Claude（クロード）」の開発企業として広く知られています。AnthropicおよびClaudeの詳細は anthropic.com をご覧ください。

「六本木アートナイト2026」

2026年10月31日（土）17:00から11月1日（日）6:00にかけてオールナイトで開催される、六本木を舞台にしたアートの祭典「六本木アートナイト2026」では、森万里子による《オノゴロ·ストーンIII》が展示されます。
本作は、『古事記』に記されたイザナギとイザナミによる国生みの神話に着想を得た作品です。宝玉で飾られた天沼矛（あめのぬぼこ）から海へと滴り落ちた潮が凝り固まり、オノゴロ島が生まれたという神話を背景に、国生み神話ゆかりの上立神岩を、現代的な素材によって再構築しています。

日時：10月28日（水）10:00～11月8日（日）22:00
場所：六本木ヒルズ ウェストウォーク2階



森 万里子
《オノゴロ·ストーンIII》
2025年
ダイクロイック· コーティングされた積層アクリル、コーリアン製台座
185×93×72 cm
展示風景：「ブルガリ カレイドス 色彩· 文化· 技巧」国立新美術館（東京）2025年

「六本木アートナイト」について
2009年にスタートした「六本木アートナイト」は、美術館をはじめとする文化施設、大型複合施設、商店街が集積する六本木の街を舞台にした大規模文化イベントです。現代アート、デザイン、音楽、映像、パフォーマンスなどの多様な作品を街なかに点在させ、非日常的な体験をつくり出すことで、アートを楽しむライフスタイルを提案。東京を代表するアートの祭典として、都市の新たな価値を創造し続けています。今年はついに、日没から夜明けまでアートを楽しむオールナイト開催が3年ぶりに復活となり、六本木全域を舞台に約60のプログラムを展開します。 https://roppongiartnight.com/

六本木アートナイト2026 夜間限定「森万里子：燦燦」＋展望台セット券

※10月31日（土）販売開始

森美術館、六本木ヒルズ展望台 東京シティビューでは、夜間特別営業（～翌朝6:00）を実施。22:00以降は通常より4,400円お得な1,000円で両施設を楽しめる特別セット券を販売します。
六本木の街で一夜限りのアートイベントを存分にお楽しみください。

料金：1,000円
※一般、学生（高校·大学生）、シニア（65歳以上）一律料金です　※18歳未満の未成年には販売いたしません
※深夜（23時～午前4時）の時間帯は、保護者同伴の場合であっても、18歳未満の方のご入場はできません
対象期間：2026年10月31日（土）22:00～11月1日（日）5:30
販売期間：2026年10月31日（土）22:00～11月1日（日）5:30
販売：当日窓口
※オンラインチケットの販売はありません
※22:00以降は森美術館、東京シティビューの各単独券の販売はありません
※《Wave UFO》の鑑賞体験（ポッド内への入場）はできません

プレスリリース　お問い合わせ　「森万里子：燦燦」広報事務局（サニーサイドアップ内）
mam_morimariko_pr@ssu.co.jp　担当：矢野（080-7934-3745）、城田（080-4652-4613）、岩崎

▌展覧会オリジナルグッズ

Tea Bowl with Pouch

森万里子の代表作のひとつ、《ドリーム・テンプル》に使用されている五曜の文様をあしらい、京都で特別に仕立てた茶碗袋と、職人が一つずつ手仕事で仕上げたオパールガラス茶碗。

　茶碗の柔らかな光がお茶の色を美しく引き立て、日常から離れた静謐な時間をもたらします。お茶を通してご縁をつくるという作家の思想と日本の美意識を宿した特別な道具で、心と心が響き合う豊かなひとときをお楽しみください。



価格：99,000円（税込）

お問い合わせ：森美術館 ショップ 53
Tel：03-6406-6118　営業時間：10:00-22:00（祝日を除く火曜日は17:00まで）　＊美術館の開館時間に準ずる

▌割引情報

学生早割

12月29日まで、学生のオンラインチケットは通常より500円引きとなります。

料金：[平日]学生（高校・大学生）1,100円　[土・日・休日]学生（高校・大学生）1,200円
　　※中学生以下は無料
対象期間：2026年10月31日（土）～2026年12月29日（火）
販売期間：2026年10月31日（土）～2026年12月29日（火）23:59まで
販売サイト：森美術館オンラインチケット　※窓口での販売はありません

平日ペア割

12月29日まで、オンライン限定で、平日なら2名で600円引き（1名あたり300円引き）となります。
ぜひお誘いあわせのうえご来館ください。

料金：[平日]一般2,300円（2名4,600円）、シニア（65歳以上）1,900円（2名3,800円）　※土・日・休日は対象外
対象期間：2026年11月2日（月）～2026年12月29日（火）
販売期間：2026年10月31日（土）～2026年12月29日（火）23:59まで
販売サイト：森美術館オンラインチケット　※窓口での販売はありません

夜割

12月29日まで、オンライン限定で、17:00以降は200円引きとなります。仕事帰りに、週末のお出かけに、ぜひご利用ください。

料金：[平日]一般2,400円、シニア（65歳以上）2,000円　[土・日・休日]一般 2,600円、シニア（65歳以上）2,200円
対象期間：2026年10月31日（土）～2026年12月29日（火）
販売期間：2026年10月31日（土）～2026年12月29日（火）23:59まで
販売サイト：森美術館オンラインチケット　※窓口での販売はありません

プレスリリース　お問い合わせ　「森万里子：燦燦」広報事務局（サニーサイドアップ内）
mam_morimariko_pr@ssu.co.jp　担当：矢野（080-7934-3745）、城田（080-4652-4613）、岩崎

「森万里子：燦燦」＋展望台セット券

「森万里子：燦燦」と東京シティビュー（展望台）のセット券。通常より最大700円お得です。
六本木の最上層でしか味わえない、特別な1日をお得にお楽しみください。

料金：［オンライン］一般4,500円、学生（高校・大学生）2,600円、子供（4歳～中学生）1,000円、シニア（65歳以上）3,800円
［当日窓口］一般4,900円、学生（高校・大学生）3,000円、子供（4歳～中学生）1,100円、シニア（65歳以上）4,200円
※平日・土日休日同料金

対象期間：2026年10月31日（土）～2027年2月14日（日）
※ただし、2026年11月4日（水）～11月12日（木）、2026年12月18日（金）～2027年1月3日（日）は除く

販売期間：［森美術館オンラインチケット］2026年10月31日（土）～2027年2月14日（日）
［当日窓口］（六本木ヒルズ森タワー3階「美術館・展望台チケット／インフォメーション」）
2026年10月31日（土）～2027年2月14日（日）

販売：森美術館オンラインチケット
当日窓口（日時指定枠に空きがある場合に販売）
※セット券購入後の変更、返金はいたしません　※他の割引との併用はできません

森美術館オンラインチケット：visit.mam-tcv-macg-hills.com

「森万里子：燦燦」同時開催プログラムのご案内

会期：2026年10月31日（土）―2027年3月28日（日）　＊「森万里子：燦燦」展チケットでいずれのプログラムも鑑賞可

MAMプロジェクトは森美術館が世界各地のアーティストと実験的なプロジェクトを行うシリーズです。

MAMプロジェクト035：ブリー・ルエイ

会場：森美術館（六本木ヒルズ森タワー53階）
主催：森美術館
企画：德山拓一（森美術館シニア・キュレーター）
協力：滋賀県立陶芸の森

米国ニューメキシコ州サンタフェを拠点に活動するブリー・ルエイは陶の物質性とアーティスト自身の身体性、そして手作業に焦点を当て、パフォーマティブな要素を取り入れた彫刻作品を制作してきました。代表的なシリーズに、自身の体重と同じ重さの粘土を押し広げ、引き裂き、掻き出すといった全身の動きによって成形した作品があります。本展では、滋賀県立陶芸の森でのアーティスト・イン・レジデンスを通じて、日本の土や陶芸史についてリサーチを行い、その成果を自身の実践と結びつけた新作として発表します。



ブリー・ルエイ
《身体の開花を翻訳する、130ポンド＋130ポンド》
2026年
炻器、釉薬、金具
304.8×299.7×7.6 cm
画像提供：Night Gallery, Los Angeles
※参考図版

ブリー・ルエイ アーティストトーク ※日英同時通訳

滋賀県立陶芸の森でのアーティスト・イン・レジデンスで制作した本展出品作品を起点に、これまでのアーティストの実践について語ります。

出演：ブリー・ルエイ（アーティスト）、德山拓一（森美術館シニア・キュレーター）
日時：2026年10月31日（土）14:00～15:30（受付開始：13:45）　**会場**：森美術館ラーニング・ルーム
定員：70名（要予約、先着順）　**料金**：無料（ただし、当日有効の森美術館の展覧会チケットが必要です）
お申し込み：森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

プレスリリース　お問い合わせ　「森万里子：燦燦」広報事務局（サニーサイドアップ内）
mam_morimariko_pr@ssu.co.jp　担当：矢野（080-7934-3745）、城田（080-4652-4613）、岩崎

MAM SCREEN

MAMスクリーンは、世界の多様な映像作品のなかから
選りすぐりのシングル・チャンネル作品を上映するプログラムです。

MAMスクリーン024：ジャッカワーン・ニンタムロン



ジャッカワーン・ニンタムロン
《根茎(リゾーム)》
2022年
ビデオ
29分13秒
Courtesy: Mit Out Sound Films, Bangkok

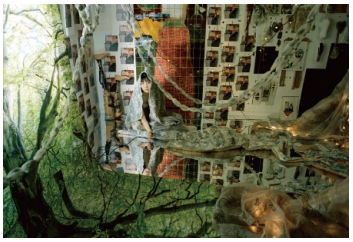
会場：森美術館（六本木ヒルズ森タワー53階）
主催：森美術館
企画：矢作 学（森美術館アソシエイト・キュレーター）

ジャッカワーン・ニンタムロン（1977年、タイ・ロッブリー生まれ）は、短編・長編映画からドキュメンタリー、マルチチャンネル映像インスタレーションに至るまで、多様な映像形式を手掛けています。彼の映像作品は、仏教思想と生態学的な概念を、SFやシュルレアリスムのイメージに織り交ぜることで、人間の経験を支配する目に見えない力を探求します。

本展は、洪水により水没した世界を筏（いかだ）で漂う男を描いた《根茎(リゾーム)》(2022年）を軸に、3つの作品を上映します。

※上映時間は火曜日を除く18:00～22:00です。

森アートアワード2026 グランプリ受賞記念展：片山真理



片山真理
《tree of life #001》
2024年
Cプリント（手焼き）
Courtesy: Galerie Suzanne Tarasieve, Paris; Yutaka Kikutake Gallery, Tokyo
※参考図版

会場：森美術館 小企画展示室（六本木ヒルズ森タワー53階）
主催：一般財団法人森現代芸術財団、森美術館
企画：徳山拓一（森美術館シニア・キュレーター）

一般財団法人森現代芸術財団（MoriCAF）と森美術館は、「森アートアワード」の初代グランプリを受賞した片山真理の受賞記念展を共同開催いたします。

片山は、手縫いのオブジェを起点に写真、映像、インスタレーションを展開。自己と他者、人工と自然など、社会に内在する境界を問い、拡張する可能性を提示してきました。その実践が同アワードで高く評価され、国際的なアートシーンでのさらなる飛躍が期待されています。本展では、受賞理由にもなったヴィクトリア＆アルバート博物館（ロンドン）に収蔵された近作「tree of life」シリーズ（2024年～）を中心とした作品を紹介します。

一般財団法人森現代芸術財団（略称：MoriCAF）ウェブサイト：https://mori-caf.jp/

同時開催プログラムに関するお問い合わせ：森美術館 広報
お問い合わせフォーム：https://rjpb.f.msgs.jp/n/form/rjpb/YrQPYWVha6-dtL7PnD5MU